

今月の重点活動

■スマート農業機械・機器導入 水位センサー・給水ゲート貸出

6月に入り管内各地の水田では水稻移植作業がピークを迎えた。県のスマート農業機械・機器貸出事業に基づき、スマート農業推進室から、(株)DIB(大垣市)、(農)栗原ファーム(垂井町)、今須地区(関ヶ原町)へ「水位センサー・給水ゲート」が貸出され、関係機関(市町、JA、農林事務所)も立ち会った。

本機は、通信機能により開放型用水から水田へ遠隔操作で自動給水できる装置で、水の見回り労力を大幅に削減できると期待されている。

農林事務所では、「水位センサー・給水ゲート」が設置されたほ場の生育状況などを、定期的に確認し適正に運用できるよう支援を行っている。



【スマート農業機器の取扱いについて説明】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■水稻 小学生を対象とした田植え体験を開催

6月16日、大垣市墨俣町下宿で、墨俣小学校5年生を対象とした田植え体験が開催された。田植え体験は、毎年、地元農家のほ場で行われており、秋(10月)には稲刈り体験も予定されている。

当日は、墨俣小学校からは児童45人と教師が参加し、ハツシモの移植用苗を使って、株間28cm、条間30cmで田植えを行った。児童らは、地元農家やJAにしみの、農林事務所の職員の指導の下、泥に足を取られながら、慣れない手つきで、田植え作業を行っていた。

農林事務所は、田植え作業の指導を行うとともに、米づくりについての児童からの質問に答えるなど支援を行った。今後も将来の担い手と期待される児童らに、稲作づくり体験を通して、農業の魅力や食の大切さを伝える活動を支援していく。



【田植え体験の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■小麦 収穫作業がほぼ終了

管内の2市6町では、イワイノダイチが約800ha、さとのそらが約1,240ha栽培されており、5月29日(昨年は5月26日から)から管内のトップを切って海津市、垂井町で小麦の収穫作業が開始された。

今年産の小麦は、出穂が平年並みとなったが、その後の降雨の影響で赤かび病が発生し、品質低下が心配された。

6月26日で、すべて収穫が終了している。収量、品質については、まだ確定していない状況であるが、収量は昨年より多いと見込まれている。また、等級については、1等調製となる見込みである。

農林事務所では、穀粒水分の測定を行うなど適期収穫の指導を行った。今後は、施肥等(基肥増量や晩播の播種量増)の実証ほの結果を取りまとめ、次年度の小麦の安定生産に繋げていく。



■モロヘイヤ マイナー品目農薬登録試験の実施

農業技術センター、農林事務所、J Aが協力し、マイナー品目農薬登録に向けた現地試験を6月中に延べ4回実施した。

ハウス内に設定した各区（試験区、慣行区、無農薬区）に対して農薬散布作業や対象害虫（アザミウマ類）調査、また残留農薬分析用サンプルの収穫を行った。

当初は5月から調査開始予定であったが、生育が遅れ、残留農薬分析用の収穫量の確保に支障をきたすことから延期したことで、順調に試験が進んでいる。なお、無農薬区の設置により、今までに経験のないアザミウマの増加、一方では天敵（カブリダニ）も確認された。27日の収穫調査で現地試験は終了とした。



【試験区の農薬散布】

■冬春トマト 池辺園芸トマト組合研修会の開催

池辺園芸トマト組合では、6月3日に研修会を開催した。同組合は、県内の冬春産地でいち早く、果肉が硬い品種を導入しており、本年産は、硬玉品種である「TYかれん」、「麗紀」を全面的に導入している。

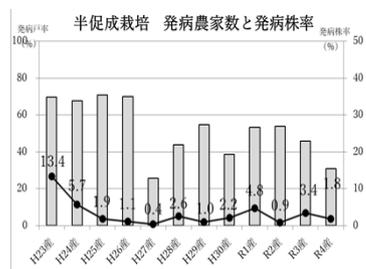
農林事務所からは、本年産の「TYかれん」、「麗紀」の栽培状況を説明し、高温期に着果不良や果形が乱れやすいこと、4月以降の高温期には、樹勢が低下すること、特に「麗紀」では、その症状が著しいことを説明した。また、次年産に向けての土壌還元消毒や台木の選定についても説明をし、土壌消毒の実施を呼びかけた。



【研修会の様子】

■きゅうり 4年産栽培反省会の開催

6月14日、J A海津中支店において、海津胡瓜部会の栽培反省会が開催された。本年は病害虫の発生は少なかったが、一部ほ場では初期からミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病が発生したり、4月下旬以降タバコナジラミが媒介する退緑黄化病が増加するほ場も散見された。農薬業者からは、ウイルスを媒介する害虫の天敵農薬について、種苗業者からは次作の栽培のポイント等について情報提供された。農林事務所からは、害虫をハウス外に出さないための蒸込みや侵入対策等について、次作に向けて徹底するよう注意喚起した。また、燃油高騰対策支援事業について情報提供を行った。引き続きウイルス病及び燃油高騰対策の支援を行っていく。



地域資源を生かした農村づくり

■西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会 野菜づくり研修会の開催

農業婦人クラブの県連組織は令和2年度に解散したが、西濃地区では、大垣市、旧上石津町、垂井町、安八町の4グループ（76名が）で西南濃地区農業婦人クラブ連絡協議会を構成し、活動を続けている。こうした中、6月1日（水）に、大垣市西部研修センターにおいて、令和4年度第1回野菜づくり研修会が開催された。

農林事務所は研修会の講師として、「連作障害」、「農薬使用にあたっての注意点」などの説明を行った。参加者からは、各自で栽培している野菜の病害虫対策や天候による生育不良に関する質問など多く出され活発な研修会となった。引き続き、研修会の開催など同協議会の活動を支援していく。



【野菜づくり研修会の様子】